

群馬県高体連ソフトテニス専門部 諸規定（令和4年度）

1 大会参加について

(1) 引率・監督

ア 引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。ただし、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、県高体連会長に事前に届け出ること。

イ 監督（団体戦）及びベンチ入り指導者（個人戦）は校長の認める指導者とし、それが外部指導者の場合には「外部指導者届」を提出しなければならない。

ウ 団体戦の場合には、監督は必ずベンチに入るものとする。

(2) 参加資格

ア 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。

イ 選手は、校長が認めた者で、群馬県高等学校体育連盟に加盟する生徒であること。

ウ 選手は、(公財)日本ソフトテニス連盟支部加盟校の在籍生徒であり、2級審判員の資格を有する生徒であること。（申請中、取得予定を含む）

エ チーム、ペアの編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。

オ 出場は、当該年度の4月2日以降に満19才の誕生日を迎える者とする。ただし、県外大会の予選を兼ねる場合は、同一学年での出場は1回限りとする。

カ 転校後6ヶ月未満の生徒は参加を認めない。ただし、一家転住などやむを得ない場合は、群馬県高等学校体育連盟会長の許可があればこの限りではない。

(3) 参加申込

ア 申込は、所定の書式を用いて所定の期日までに電子メールで行うこと。

イ 団体戦は、男女とも各1校1チームとし、1チームの人数は監督1名、選手4名以上とする。（部員であれば、対戦ごとに選手を替えて出場することができる。）

ウ 個人戦は、各大会の規定による。県高校総体・県高校選手権においては、資格のある選手を申し込む。

エ 「夏季大会・団体戦」における特例

各学校においてチームが編成できない場合、複数の学校の合同チームでの参加を認める。申し込みは、代表となる学校がその旨を明記して行い、監督申込は1名とする。

(4) 参加料

ア 団体戦は1チーム3,000円、個人戦はダブルス1ペア及びシングルス1名につき1,000円とする。

イ 申込後に棄権した場合も、申込を行ったチーム・ペア・個人について支払うこと。

(5) 監督の変更・個人戦の選手変更及び棄権

ア 監督を変更する場合は、「監督変更届」を大会当日の到着受付時に本部に提出すること。大会開始後の変更は原則として認めない。

イ 選手の変更はダブルス1ペアにつき1名を認める。ただし、申込していない選手

- に限る。そのときは、「選手変更届」を大会当日の到着受付時に本部に提出すること。
- ウ 片方の選手が欠けるペアが複数出た場合、出場できる選手同士で新たなペアを編成して出場することができる。その位置は本部が抽選で決定する。
- エ シングルスにおける選手の変更は認めない。
- オ 所定の時間に受付を完了できない場合は、マッチ開始1時間を経過した時点で、棄権と見なすことがある。

(6) 使用球

「KENKO」または「アカエム」を男女交互に使用し、新人大会より交替する。

(7) 注意事項

- ア 選手は、(公財)日本ソフトテニス連盟指定のゼッケンを背中につけること。所属名は正式校名の略称を使用し、「～高校」「～中等」を入れる。左記の名称が使われていない場合は、略称校名を用いることができる。
- イ ユニフォーム、用具等は次の通りとする。
- (ア) ユニフォームは、(公財)日本ソフトテニス連盟公認メーカー推奨のテニス用品を着用すること。マッチ中での長袖・長ズボンの着用は原則として認めない。やむを得ず着用する場合には、「異装届」を大会当日の到着受付時まで本部に提出すること。
- (イ) 上記以外のユニフォーム等の着用基準及びアンダーウェアの着用については、(公財)日本ソフトテニス連盟の規定に準じるものとする。
- (ウ) テニスシューズは、(公財)日本ソフトテニス連盟公認のものを使用すること。
- (エ) ラケットは、(公財)日本ソフトテニス連盟公認マークがついているものを使用すること。
- ウ 参加選手及びチームは、所定の時間までに受付を終了すること。
- エ 参加選手及びチームは、マッチの進行に協力すること。出場選手及びチームの呼び出しは原則として行わないので、当該コートの進行に注意し、速やかに出場すること。出場しない場合には、棄権となることもある。
- オ 選手の服装は清潔を旨とし、試合に際しては応援も含めて礼儀正しく品位を傷つけないようにすること。監督・ベンチ入り指導者も選手に準ずること。

(8) 不正出場

次に該当する行為を不正出場と見なし、当該選手の所属する学校は、当該大会の日より向こう1年間本専門部の主催する大会への出場を禁止する。

- ア 「1(2)」に違反した場合。
- イ 「1(5)」に違反した場合。
- ウ 年齢や学年を偽って出場した場合。
- エ 団体戦において、「オーダー票」に記載した選手以外の者が出場した場合。また、「オーダー票」に記載したものと異なる順番で出場した場合。
- オ 個人戦において、敗退した選手が再び出場した場合。

※不正出場が発覚した時点で、すでにそのチームあるいはペアに負けたチーム・ペアの復活は原則として行わない。

2 登録について

- (1) 県高校総体までに、登録金（男女各 5,000 円）を専門部に納入し、登録を完了させること。
- (2) 年度途中で新規に参加する場合は、その試合までに（1）に準じて登録を完了させること。
- (3) 上記（1）（2）を行わない場合には、原則として本専門部主催の大会出場を認めない。
※（公財）日本ソフトテニス連盟および群馬県ソフトテニス連盟への会員登録も完了させることが望ましい。

3 専門部役員組織について

(1) 構成（県高体連競技専門部規程第3条）

部長……1人 副部長……若干人 委員長……1人 副委員長……2人以内
常任委員 部員

(2) 常任委員・部員

常任委員……各地区委員長・各部会男女主任・各地区代表男女各1人
部員……各地区から若干名

(3) 部会

- ア 総務部（大会会計・表彰・記録の整理、保管・広報等）
- イ 強化部（選手の強化育成・リーダー養成研修会の計画、運営・強化費会計等）
- ウ 競技部（大会運営等）
- エ 審判部（大会審判・審判講習会の計画、開催等）

(4) 任期

2年とし、再任を妨げない。

4 表彰について

(1) 大会表彰

大会要項で規定したチーム・ペア・個人を表彰する。優勝したチーム・ペア・個人にはトロフィーを授与する。

(2) 年間ランキング表彰

次の得点を合算し、ダブルス1位～10位までのペアを表彰する。ただし、得点が3点以上の選手に限る。また、同一選手が異なる順位にランクされた時は、最も上位のランクで表彰する。

A 県高校総体・県選手権

1位…16点 2位…8点 3位…4点 B8…2点 B16…1点
(推薦により全国大会に出場するペアには、1位と同じ得点を与える。)

B 関東大会

1位…36点 2位…28点 3位…21点 B8…15点 B16…10点
B32…6点 B64…3点

C 全国総体

1位…47点 2位…38点 3位…30点 B8…23点 B16…17点

B32…12点 B64…8点 B128…5点

(3) 監督表彰

県外大会(国民体育大会を含む)で優秀な成績を収めたチーム・ペアの監督を表彰する。

ア 個人戦…関東大会3位以上・全国大会5位以上

イ 団体戦…関東大会2位以上・全国大会4位以上

(4) 功労者表彰

本専門部に顕著な功労のあった個人を表彰する。

ア 部長を務めた者。

イ 役員として5期(10年)以上務めた者。

ウ その他特別に功労のあった者。

5 各大会について

(1) 県高校総体

ア 参加資格

(ア) 個人戦

A 前年度新人大会個人戦B32以上の選手

B 各地区予選で選出された選手

各地区予選での選出ペア数は、次の(a)・(b)を合計した数とし、その数が奇数の場合には1ペアを加えた数とする。

(a) 各地区参加ペア数/全地区参加ペア数×[男子112・女子96](小数点以下四捨五入)

(b) 各地区での前年度新人大会個人戦B32以上のペア数/2(小数点以下繰り上げ)

(イ) 団体戦

2ペア以上の対戦が可能であること。

イ 試合方法

(ア) 個人戦…トーナメント方式とする。

(イ) 団体戦…トーナメント方式で上位4チームを決める。**ただし、出場校が31チーム以下の場合、リーグ戦方式とトーナメント方式を併用して実施する。**

以後は上位4チームのリーグ戦方式とする。

ウ 関東大会出場権

群馬のチームが前年度に関東団体選手権で優勝した場合は、下記に加えて団体戦で1チーム増の出場権が得られる。(平成25年度より)

(ア) 群馬以外の開催

A 個人戦…上位16ペア

B 団体戦…上位2チーム

(イ) 群馬開催

A 個人戦…上位16ペアに加えて、B32に進出した16ペアから組合せ表に従った敗者復活戦を勝ち残った4ペアの20ペア

B 団体戦…上位3チーム

エ 組合せ方法

(ア) 個人戦

- A 同ランク内でシードの高いペアに負けたペアを上位とし、B64 までは上位・下位に分けて配置する。
- B 同校の偏り、校内ランクを考慮しながら配置する。
- C 各地区のバランスに配慮しながら配置する。
- D ペア替えをしたペアの配置については協議する。
- E 手順

- ①新人大会 B4 を配置 ②新人大会 B8 を配置 ③新人大会 B16 を配置
- ④新人大会 B32 を配置
- ⑤B64 を配置

- (手順) 1. 総体参加ペア数の割合で 32 ペアを各地区に配分し、選出する。
2. 地区ごとに上位・下位に分ける。(16 ペアずつになるように調整)
3. 上位のうち、各地区 1・2 位を配置する。
4. 上位の残りを抽選で配置する。(同校対戦をできるだけ避ける)
5. 下位を抽選で配置する。(同校対戦をできるだけ避ける)

⑥第 16 シードまでのパックを配置

- (手順) 1. 総体参加ペア数の割合で 32 ペアを各地区に配分し、選出する。
2. 各地区のバランス・同校の偏り・校内ランクを考慮して配置する。

⑦残りのペアを、出場数の多い学校から配置

※⑤-3 の配置順は次の通りとし、A~D は抽選する。

	A 地区	B 地区	C 地区	D 地区
1 位	1	2	3	4
2 位	4	3	2	1

(イ) 団体戦

- A 同ランク内でシードの高いチームに負けたチームを上位とし、B16 までは上位・下位に分けて抽選で配置する。
 - B B16 を配置するとき、前回対戦したチームが配置された 1 / 4 ブロック以外のブロックに抽選で配置する。
 - C 手順
- ①前回大会 B4 を配置 ②前回大会 B8 を配置 ③前回大会 B16 を配置
 - ④前回大会に不出場のチーム、前回大会 1 回戦敗退チーム (33 チーム以上出場の場合に限る) を高いシードのパックの位置に配置
 - ⑤残りのチームを、前回大会と同対戦を避けて抽選で配置

(2) 県高校選手権大会

ア 参加資格

(ア) 個人戦

(県高校総体と同じ)

(イ) 団体戦

2 ペア以上の対戦が可能であること。

イ 試合方法

(ア) 個人戦…トーナメント方式とする。

(イ) 団体戦…トーナメント方式とする。**ただし、出場校が31チーム以下の場合は、リーグ戦方式とトーナメント方式を併用して実施する。**

ウ 全国総体出場権

(ア) 個人戦

A 前年度の全国総体で5位以内の成績を収めた選手を含むペア

※ただし、5位以内に入ったペアが組替えをした場合には学校上位のペアとする。また、残りのペアは下記Cに準じて決定する。

B 8ペア出場の場合…上位8ペア

C 6ペア出場の場合…上位4ペアに加えて、B8に進出した4ペアのリーグ戦の上位2ペア

(イ) 団体戦…1位のチーム

エ 組合せ方法

(ア) 個人戦

A 同ランク内でシードの高いペアに負けたペアを上位とし、B64までは上位・下位に分けて配置する。

B 同校の偏り、校内ランクを考慮しながら配置する。

C 各地区のバランスに配慮しながら配置する。

D ペア替えをしたペアの配置については協議する。

E 手順

①前回大会 B4 を配置 ②前回大会 B8 を配置 ③前回大会 B16 を配置

④前回大会 B32 を配置 ⑤前回大会 B64 を配置

⑥各地区より第16シードまでのバックに相当するペアを選び、配置

⑦残りのペアを、出場数の多い学校から配置

(イ) 団体戦

A 同ランク内でシードの高いチームに負けたチームを上位とし、B16までは上位・下位に分けて抽選で配置する。

B B16を配置するとき、前回対戦したチームが配置された1/4ブロック以外のブロックに抽選で配置する。

C 手順

①前回大会 B4 を配置 ②前回大会 B8 を配置 ③前回大会 B16 を配置

④前回大会に不出場のチーム、前回大会1回戦敗退チーム(33チーム以上出場の場合に限る)を高いシードのバックの位置に配置

⑤残りのチームを、前回大会と同対戦を避けて抽選で配置

(3) 夏季大会

ア 参加資格

1・2年生であること。

(ア) ダブルス

各校の参加ペアの制限は設けない。

(イ) シングルス

A 各校2名以内

B 前項Aに加えて、「県高校選手権大会」においてB32以上に進出した者および「ハイスクールジャパンカップ県予選シングルス」においてB16以上に進出した者。

(ウ) 団体戦

2ペア以上の対戦が可能であること。(P.1「参加申込」の「特例」参照)

イ 試合方法

(ア) ダブルス・シングルス

トーナメント方式とする。

(イ) 団体戦

A 申込みが32校以下の場合

トーナメント方式、または8グループの4チームリーグ戦を経ての上位校によるトーナメント方式とする。

※32校に満たないときは、32チームになるように、「組合せ方法」での上位校よりBチームを出場させることができる。

B 申込みが33校以上の場合

トーナメント方式とする。

ウ 県シングルス選手権（県連盟主催）への出場権

上位16名を推薦する。ただし、推薦者が決定しなかった場合は、他の大会の結果を基に推薦する。推薦順位は、「新人戦個人戦」「夏季大会ダブルス」の順とする。

エ 組合せ方法

(ア) ダブルス

A 「県高校選手権大会」の結果を第1資料、「県高校総体」の結果を第2資料とし、上位・下位に分けて、配置する。

※「県高校選手権大会」「県高校総体」を同等とみなし、戦績が同じである場合は、第1資料を優先する。

B 同校の偏り、校内ランクを考慮しながら配置する。

C 各地区のバランスに配慮しながら配置する。

D ペア替えをしたペアの配置については協議する。

E 手順

①4シードを配置 ②8シードを配置 ③16シードを配置

④32シードを配置 ⑤64シードを配置

⑥各地区より第16シードまでのパックに相当するペアを選び、配置

⑦残りのペアを、出場数の多い学校から配置

※参加組数÷2を超えないシードまで配置する。

(イ) シングルス

A 「ハイスクールジャパンカップ県予選シングルス」の結果を第1資料、「県高校選手権大会」の結果を第2資料、「県高校総体」の結果を第3資料とし、上位・下位に分けて、配置する。

※「県高校選手権大会」「県高校総体」を同等とみなし、戦績が同じである場合

は、第2資料を優先する。

B 同校の偏り、校内ランクを考慮しながら配置する。

C 各地区のバランスに配慮しながら配置する。

D 手順

①ジャパソカップ B8以上を配置 ②選手権または総体 B4以上を配置

③選手権または総体 B8、ジャパソカップ B16を配置

④残りの16シードを上記Aの大会戦績を考慮しながら適宜配置

※ 参加90名以上の場合は、32シードを配置する。

⑤各地区より第8シードまでのパックに相当する選手を選び、配置

⑥残りの選手を、出場数の多い学校から配置

(ウ) 団体戦

A 夏季大会ダブルスが終了しているときは「ダブルス」、終了していないときは「県高校選手権個人戦」での1・2年生を含む上位3ペアの合計得点により配置する。

1位…17点 2位…14点 3位…11点 B8…8点 B16…5点

B32…3点 B64…1点

B 手順

①得点に従って配置（同点の場合は、成績の高いペアのいるチームを上位とする。3ペアとも同じ場合には、抽選とする。）

※リーグ戦の場合、1位～8位を8つのグループに割り振り、その後9位以下を、9位を8位グループに16位を1位グループに振り分け、17位以降も同様とする。

②得点のないチームを抽選で配置

※トーナメント方式の場合、「選手権大会」と同対戦になっても構わない。

(4) 新人大会

ア 参加資格

1・2年生であること。

(ア) 個人戦

各校の参加ペアの制限は設けない。

(イ) 団体戦

2ペア以上の対戦が可能であること。

イ 試合方法

(ア) 個人戦

トーナメント方式とする。

(イ) 団体戦

トーナメント方式で上位4チームを決める。**ただし、出場校が31チーム以下の場合、リーグ戦方式とトーナメント方式を併用して実施する。**以後は上位4チームのリーグ戦方式とする。

ウ 関東選抜大会出場権

団体戦上位2チームに与える。

エ 組合せ方法

(ア) 個人戦

- A 「夏季大会ダブルス」の結果により、上位・下位に分けて配置する。
- B 同校の偏り、校内ランクを考慮しながら配置する。
- C 各地区のバランスに配慮しながら配置する。
- D ペア替えをしたペアの配置については協議する。
- E 手順
 - ① 4 シードを配置 ② 8 シードを配置 ③ 16 シードを配置
 - ④ 32 シードを配置 ⑤ 64 シードを配置
 - ⑥ 各地区より第 16 シードまでのパックに相当するペアを選び、配置
 - ⑦ 残りのペアを、出場数の多い学校から配置

(イ) 団体戦

- A 「新人大会・個人戦」における各チームの戦績上位 3 ペアの合計得点により配置する。得点は次の通りとする。
 - 1 位…17 点 2 位…14 点 3 位…11 点 B 8…8 点 B 16…5 点
 - B 32…3 点 B 64…1 点
- B 手順
 - ① 得点に従って配置（同点の場合は、成績の高いペアのいるチームを上位とする。3 ペアとも同じ場合には、抽選とする。）
 - ② 得点のないチームを抽選で配置
 - ※ 「選手権大会」「夏季大会」と同対戦になっても構わない。

6 国民体育大会の選手選考について

(1) 第一次予選

「県高校選手権大会」が兼ね、全国総体出場者を第一次予選通過者とする。

(2) 第二次選考会

ア 参加資格

- (ア) 全国総体出場者
- (イ) 「県高校選手権大会」「県高校総体」の個人戦で、ともに B 8 以上に進出した者
- (ウ) 「県高校総体」個人戦で決勝に進出した者
- (エ) 関東大会で B 16 以上に進出した者
- (オ) 前年度「夏季大会・シングルス」または「ハイスクールジャパンカップ県予選シングルス」で B 4 以上に進出した者
- (カ) 強化部が推薦した者
- (キ) 高専の第 3 学年以下に所属する者（4 名以内）
- (ク) 中体連から推薦された者（8 名以内）
- (ケ) 県連各支部に所属する者で、4 月 2 日を起算として満 14 才以上 18 才未満の者（人数は別途協議）

イ 選考方法

選考会を開催し、各選手を強化部の複数の部員が採点し、選考する。
(→申込選手の決定)

(3) 最終選考・決定

全国総体の結果等を参考にして強化部が選考し、専門部常任委員会で決定する。

7 ハイスクールジャパンカップ県予選について

(1) 参加資格

ア ダブルス

新人大会個人戦上位32ペア

イ シングルス

夏季大会シングルスの上位16名及び各校1名

(2) 試合方法

トーナメント方式とする

(3) 本戦出場権

ダブルス・シングルスとも、優勝したペア及び個人に与える。ただし、ダブルスにおいて優勝者が決定しなかった場合は、「県高校総体個人戦」の優勝者に権利を与える。

(4) 組合せ方法

同ランク内で抽選し、初戦の同校対戦だけを避ける。(上位・下位に分けない。)

平成24年4月	施行
平成25年2月	改訂
平成26年2月	改訂
平成27年2月	改訂
平成28年2月	改訂
平成29年2月	改訂
平成31年2月	改訂
令和2年2月	改訂
令和4年2月	改訂